

高校1年 学年通信 No.4

2018年6月19日

梅雨時のはっきりしない天気が続いています。皆様におかれましては、ますますご壮健のこととお喜び申し上げます。また、平素は学校活動に多大なご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。昨日の地震では、被害などございませんでしたでしょうか。

さて、先週末には「夢ナビライブ」に参加いたしました。

「夢ナビライブ」は、学問に関心を高めた高校生と教員、そして大学が出会う合同進学ガイダンスです。このガイダンスに参加することで、

- ・自分が学びたい学問を発見し、学問のイメージを明確にします。
- ・進学に関して気になることを担当者に直接質問したり、大学の魅力について説明を受けることもできます。

夢ナビライブは、究めたい学問の発見から学べる大学との出会いまで、一度に体験できるまたとないチャンスなのです！

(夢ナビライブHP(<http://frompage.jp/service/yumenavi.html>)より)

昨年は、大阪会場に24000人を超える高校生が参加しました。今年も同様の規模で実施されました。当たり前のことですが、目標設定が早い方が取り組みに確実性が出ます。同世代の高校生が目標を探したり興味のある講義を聴き入っている様子を肌で感じることで、目標設定がまだの者にはその意識の喚起を、すでに目標設定ができている者にはそれを明確にしたりさらに選択肢を広げることが、目的としています。



当日は、“講義ライブ”で大学教授からさまざまな学問の内容の講義を受ける者、“夢ナビ TALK ”でたくさんの学問のプレゼンテーションを受ける者、“まなびステーション”で大学の先生に直接進路相談を受ける者、“大学別説明ブース”で直接大学の担当者と説明を受ける者など、各自の興味に合わせて行動していました。

高校1年生は、学問分野においても大学についても、まだまだ選択肢が少ないのが現状だと思われる。このイベントをきっかけにして、目標設定をする材料の一つでも多く見つけてもらえたらと強く願います。

高校2年生になる来年度も、時間枠を広げて「夢ナビライブ」に参加する予定です。今回の参加でどんなイベントか感じる事ができたと思いますので、より有意義な時間の過ごし方ができるように、今回感じたことをしっかりと記録してもらいたいと思います。



「成績の向上」と「振り返りの質」の関係について

先日、ベネッセコーポレーションが主催する「教育・入試改革に向けたこれからの学校教育を考える会」に参加してきました。一部その内容を報告させていただきます。

ベネッセの研究開発チーム・研究参加校・東京学芸大学の森本教授の三者で、2016年以降「初等中等教育におけるeポートフォリオを用いた学習・評価の共同研究」を行っています。そこから見えてきた内容として、

①「成績の向上」と「振り返りの質」には関係性が見られる

模試の成績が偏差値で5ポイント上昇した生徒と5ポイント下降した生徒の振り返りを比較すると、まず振り返りとして入力した文章の量が違いました。当然ですが、成績が上昇した生徒は具体的に振り返ることができており、文章量が多くなる傾向があります。

《5ポイント上昇した生徒の振り返り》

「宿題は三日間とかに焦ってやり始めてギリギリに終わらしたから間違ったところや自分がわかっていないところの確認などを全くしなかった。もっと余裕を持って取り組んで、ちゃんと復習しておけばよかった。」

《5ポイント下降した生徒の振り返り》

「英語が悪かったから頑張りたい」
「期末では点を取る」

②成績が上昇した生徒が重視している学習行動

授業に関して

学んだことやできるようになったことを記録に残す
学んだことと関連した事柄について自分なりに調べている

家庭学習について

わからないことや難しいことに直面してもあきらめずにやり抜く

模試について

間違えた問題についてなぜ間違えたのかを自問自答する

学校行事について

学んだことを記録に残しておく

全体的に

自分の中で考えた(考えていた)ことを記録に残しておく



各生徒にも、上記の内容は伝えていきます。大切なのは、

振り返り⇒自分なりの気づき⇒気づきから得たことを教訓化⇒次の行動計画

これを繰り返すこと。この継続が有効な方法です。